

こくぶんじいせき 国分寺遺跡

おおがきしあおのちょう
大垣市青野町



国分寺遺跡全景

国分寺遺跡は濃尾平野の北西部に位置し、国史跡「美濃国分寺跡」及びその周辺に広がる遺跡です。古来より東西交通の要衝とされてきた地域で、当遺跡の南には、江戸時代の中山道、古代の官道東山道と推定される道が通っています。調査の結果、主に古代の遺構や遺物を確認し、これらの遺構や遺物は国分寺の寺域外における活動の一端を考える上で、重要な資料と考えられます。



掘立柱建物跡

左の写真は、発掘区西部のA地点で検出した、国分寺創建期のものと考えられる掘立柱建物跡です。検出したのは1列だけですが、5つの柱穴からなり、発掘区外へ続きます。柱穴は一辺約1.2mの方形に近い平面形を持ち、建物は柱間約2.1m、全長8m以上の規模であることが分かりました。



墨書土器



陶馬

遺物は須恵器、灰釉陶器が大半を占めます。また、墨書土器・陶馬といった特徴的な遺物が出土しました。墨書土器は、多様な吉祥句や記号が見られること、数字に関するものが多いことなど、独自の傾向が見られました。陶馬は各務原市周辺的美濃須衛古窯跡群の製品と考えられ、県内の消費地遺跡からの出土は稀で、貴重な資料といえます。

今から約 13000 年前	約 5000 年前	約 2300 年前	約 1700 年前	約 1400 年前	約 1200 年前	約 800 年前	約 400 年前	約 150 年前	
旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世	近代		
中 後	草 早 前 中 後 晩	前 中 後	前 中 後	飛鳥	奈良	平安	鎌倉 南北朝 室町 安土桃山	江戸	明治
					—————				